



公益社団法人新潟県農林公社だより

アグフオシター

Vol. 3



2016年3月

目 次

新しい認定事業者の発表と意見交換会が行なわれました (6次産業化サポートセンター事業)	P2
農地中間管理事業の取組が加速しています (農地中間管理事業)	P3
魚沼・上越・長岡で「農林業新規就農・就業相談会」を開催 (にいがたグリーンワークセンター)	P4
にいがた秋葉っ子ふゆまつりでカーボン・オフセット (カーボン・オフセット事業)	P4
利用間伐の事例紹介 (分収林整備事業)	P5
にいがた緑の担い手大賞が決定 (林業労働力確保推進事業)	P7
特別企画：代表理事、公社造林地に行く。	P8
農林コラム：よろっと☆のうりん	P8

vol.3の表紙写真

- ①農林業新規就農・就業相談会の相談ブース
- ②6次産業化事業計画認定事業者との意見交換会
- ③上越市三和区の農業用水ため池に写る公社造林地
- ④にいがた秋葉っ子ふゆまつりの公社ブース
- ⑤阿賀町の公社造林地で施業後の確認をする公社職員



6次産業化サポートセンター事業

新しい認定事業者の発表と意見交換会が行なわれました

2月に行なわれた北陸農政局主催の6次産業化事業計画認定事業者との意見交換会で、国の総合化事業計画の新たな認定事業者が発表され、上越市頸城区で米作りを行なっている「農事組合法人 蛍の里」が認定されました。代表として生産事業課長の大塚さんが挨拶をされ、「現在は食欲の湧くような米飯の介護食が少なく、高齢者や要介護者は食の楽しみがない。食味を上げたおかゆのレトルトパックを開発し、今後大きな市場となる高齢者をターゲットに商品を展開していきたい。」と意気込みを語りました。当会社では、6次産業化プランナーを派遣し、需要調査や新商品開発等、認定に向けたサポートを行いました。

国の認定を受けた事業者は施設整備等に対する補助や、融資等の支援措置を受けることができます。当会社でも必要に応じてフォローアップを行い、引き続き支援をしていきます。



自社生産の米穀を使用して、米本来の甘味とねばりを残したおかゆを開発したいと考えています。

認定を受けた「農事組合法人 蛍の里」

意見交換会では、前半に先進的な取組を行っている認定事業者からの報告が行われ、カーブドッチワイナリー、(有)高儀農場、(有)中条たまごの代表者が、6次産業化を推進する上での情報を提供されました。時には笑いも交えた報告に、参加者からは「大変勉強になった。自社でも参考にしたい。」との声が上がっていました。

後半は6次産業化を果たした商品の紹介が行われ、参加者は商品の感想を述べ合ったり、自社と提携できる事業者を探したりと熱心に情報交換を行なっていました。



商品売るのではなく、ブランドを売ることが大事。

カーブドッチワイナリー 掛川社長の報告



展示紹介ブースでの情報交換

農地中間管理事業の取組が加速しています

事業が始まって2年目の平成27年度は、各地域で取組が加速しています。また、1年目の取組で課題となった事業や制度の周知は、新聞への広告掲載や説明会等の実施により、進んできております。



このような中、研修会等を通じて昨年度の優良事例の取組成果を波及することで、地域集積協力金を

を活用して構造改革に取り組む地域が大きく増え、昨年度の6市町村19地区から、本年度は20市町村63地区と3倍に拡大しています。

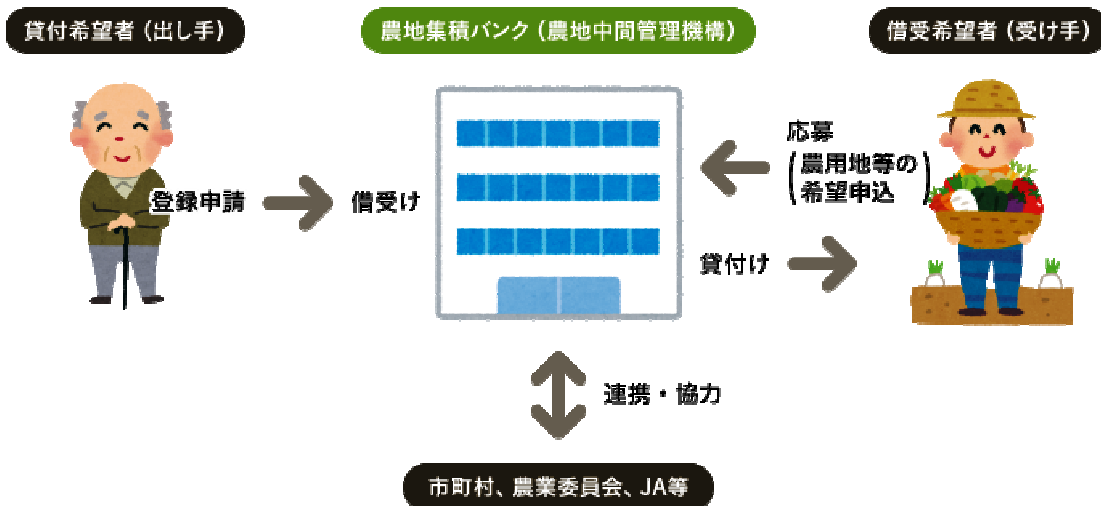
構造改革に取り組んだ地域からは、「賃料の統一が図られた」、「土地改良費の取り決めが統一された」等の地域の課題が解決され、「出し手受け手双方の話し合いの場ができたことが、最大のメリット」との声が届いています。

その結果、昨年度の倍以上、平成27年度目標(6,000ha)の約7割となる4,000haを超える事業量が見込まれることとなり定着が進んでいます。

[平成27年度 貸借事業] (単位：件、ha、千円)

区分	当初計画			実績見込		
	件数	面積	金額	件数	面積	金額
借入	7,500	6,000	1,020,000	5,165	3,946	538,449
貸付	5,100	5,980	1,016,600	2,619	4,091	558,807

平成28年度は、事業開始3年目を迎え本格的に成果が求められることから、課題となっている受け手のいない農地への対応や物納への対応、手数料の見直しなどについて業務の改善を進めていきます。



魚沼・上越・長岡で「農林業新規就農・就業相談会」を開催

農林業の担い手確保に向け、これまでの新潟市での開催に加え、相談者と受入者双方の利便性を考慮した初の試みとして「地域に出向く相談会」を県内3地域で開催しました。

来場者からは、「地元の法人が出展していて話しが身近に感じられた」「林業の職場の話は新鮮だった」といった感想が聞かれたほか、高校生が職業を選択する上での参考にしたいと農業・林業の各ブースを巡り情報収集をしていました。出展者からも相談者が地元出身者だと安心感があるとお話しも頂きました。

次年度はさらに一人でも多くの方が農林業に就業できるよう、相談会設営に工夫をこらしていきます。



ガイダンスの様子



懇切丁寧な相談ブース

カーボン・オフセット事業

にいがた秋葉っ子ふゆまつりでカーボン・オフセット



大好評！トキの森ブース

来場した親子には、アクセサリやどんぐり細工などの作成を通じて「トキの森クレジット」への寄付をいただきました。当日は雪が降る寒い日でしたが、会場内には元気いっぱいの子供たちの笑顔がありました。

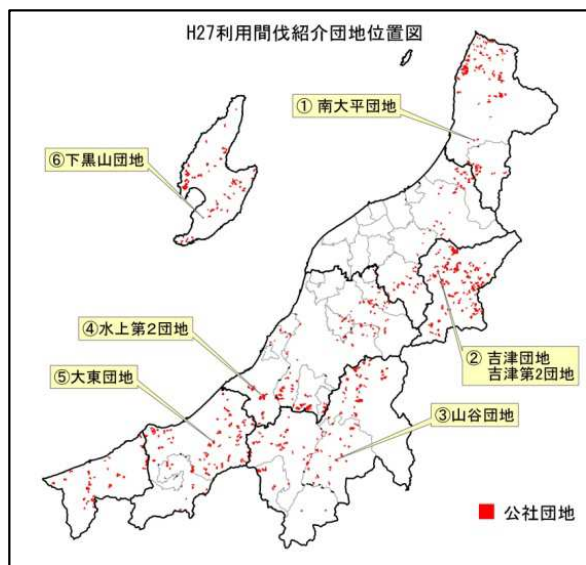
1月17日(日)秋葉区総合体育館で、外遊びの機会が減ってしまう冬に、屋内で親子が遊ぶ機会を作る「にいがた秋葉っ子ふゆまつり」が開催されました。そのイベントの一環として「カーボン・オフセットフェスタ」が開催され、「トキの森クレジット」のブースを出展しました。



元気いっぱい☆子供達のステージ

利用間伐の事例紹介

今年度も関係各位のご協力により、利用間伐を行なうことが出来ました。ここでは、今年度を実施した利用間伐団地の一部をご紹介します。



団地名	郡市町村	林齢	実施面積	搬出材積
① 南大平団地	村上市	29～30年生	7.90ha	675 ^{m³} (85 ^{m³/ha})
② 吉津団地 吉津第2団地	東蒲原郡 阿賀町	36年生	10.39ha	945 ^{m³} (90 ^{m³/ha})
③ 山谷団地	南魚沼市	37～38年生	2.44ha	125 ^{m³} (51 ^{m³/ha})
④ 水上第2団地	柏崎市	36年生	3.88ha	198 ^{m³} (51 ^{m³/ha})
⑤ 大東団地	上越市 三和区	31～32年生	4.14ha	271 ^{m³} (65 ^{m³/ha})
⑥ 下黒山団地	佐渡市	41～46年生	1.33ha	112 ^{m³} (84 ^{m³/ha})

紹介団地一欄



①南大平団地

間伐材の100%利用を目指した施業を実施。また、次年度の施業に向け、隣接団地にも先行して作業道を開設した。

②吉津・吉津第2団地

間伐材の集積場所として地元森林組合の土場を活用するなど、地域全体を活用した施業を実施。伐採木を最大限活用し、多くの木材を搬出した。





③山谷団地

継続した施業計画により、前年に開設した作業道を利用して施業を実施。施業後の森林作業道を敷き均し、次回施業時に使いやすい状態にして完了させた。



④水上第2団地

公社団地だけでなく、隣接する民有林も含めた一体的な施業の実施で、効率的な作業道の開設と、経費の削減に努めた。



⑤大東団地

列状間伐による伐採跡の列に、高性能林業機械を乗り上げて集材。作業道の開設延長を最小限にとどめ、コスト削減に努めた。



⑥下黒山団地

山土場としてのスペースが確保できないため、作業工程を工夫して作業道を山土場として活用。間伐材を島内で完全消費し、運搬経費を抑えた。

来年度はさらに利用間伐が進むよう、今年度よりも募集時期を早め、早期に発注が可能となるようにしております。これにより施業実施期間が確保でき、より広い面積で施業の実施が可能になります。来年度も引き続き分収林事業に、ご理解とご協力をお願い致します。

にいがた緑の担い手大賞が決定

農林公社では、本県の森林整備担い手の確保・育成及び雇用安定のため、顕著な貢献をした林業事業体及び個人を対象に「にいがた緑の担い手大賞」の表彰を行なっています。

第3回目となる平成27年度は、2月5日県庁講堂で開催された「やまの守り手発表会」の席上において、事業体の部で「中蒲みどり森林組合」を表彰しました。中蒲みどり森林組合は、変化しつつある社会環境に順応できる経営体質の強化を目指し、平成24年に策定した「中期経営計画（H25～27）」により事業を展開するとともに、森林技術員の確保や雇用の安定にも努めています。



表彰式後の記念撮影
右…農林公社 岡村代表理事
左…中蒲みどり森林組合
相田代表理事組合長

これまでの事業展開を利用間伐主体に切り替え、森林施業プランナーが中心となった提案型集約化施業の推進や、ハーベスタなど高性能林業機械の導入による作業の低コスト化、生産性の向上に努めています。また、林業労働力確保支援センターが行なっている「林業就業支援講習」では、研修会場の提供や講師を務めるなど、林業担い手確保の一翼を担い、その功績には大きなものがあります。

林業就業支援講習の
一コマ



今後も、林業労働力確保支援センターでは、林業の発展及び担い手の確保のため、各林業事業体に対し、できる限りの支援をしていきます。

代表理事、公社造林地に行く。

岡村代表理事が、柏崎市・十日町市・上越市にある公社造林地の視察をしました。

当日は、雨の降るあいにくの天気でしたが、利用間伐などの施業実施状況や、植栽木の生育状況など、公社造林地の現状を見て回りました。さて、公社造林地を実際に見た感想は…？

「間伐された森林は美しいと感じる一方、厳しい環境条件の中で施業がしっかり行なわれていることに敬意を抱いた次第です。松代地区で森林組合の職員にお会いしました。雨の中仕事をされている姿を見て、気が引き締まる思いでした。」



★★

農林コラム よろっと☆のうりん 今回のテーマは「空から見た造林地」

こちらのコーナーでは、日々の業務で感じたことなどを自由に書いていきます。

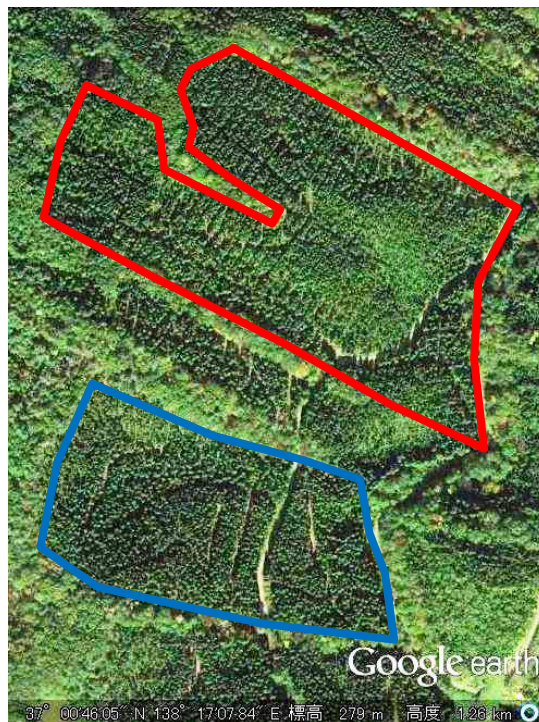
★★

突然ですが、右の写真をご覧ください。これはインターネットで見える事ができる航空写真です。場所は、新潟県内の上越地方にある公社造林地です。赤線で囲んであるところと、青線で囲んであるところは、どちらもスギの林になります。

2つの場所を見比べてみると、白っぽく見える不規則な線（道）の他に、赤線の中には規則的に並んだ筋状のものが見えます。青線の中には同じような筋状のものは見当たりません。

実はこれ、利用間伐を実施した跡なのです。赤線の中は列状間伐（機械的に一定間隔で列状に木を伐る間伐方法）を行なった場所で、青線の中は定性間伐（木の生育状況を見ながら、一定割合で木を伐る間伐方法）を行なった場所です。

インターネットを使えば、誰でも簡単に造林地の様子を見ることができます。まだ山には雪がたくさんありますが、コタツでミカンでも食べながら、造林地の空中散歩を楽しまれてみてはいかがでしょうか。



列状間伐（赤線）と定性間伐（青線）

☆アグフォレターを読んだ感想をお寄せください☆

「公益社団法人 新潟県農林公社だより アグフォレター」を読んだ感想・ご意見・ご要望などがありましたら、公社までお寄せください。お寄せいただいた内容は、今後の誌面作りの参考にさせていただきます。

連絡先

Eメール：rinsei@niigata-inet.or.jp

FAX：025-285-5070

郵便：〒950-0965 新潟市中央区新光町15番地2 公益社団法人 新潟県農林公社
広報企画委員会 山本 宛て

事業目的：新潟県農林業の振興

経営理念：未来志向による支援事業の推進

公益社団法人 新潟県農林公社

郵便番号：950-0965

住所：新潟市中央区新光町15番地2

電話：025-285-7711

FAX：025-285-5070